

ま え が き

『ICU 日本語教育研究』第 16 号をお届けいたします。

発刊母体であるグローバル言語教育研究センター (RCGLE) は、2018 年 4 月 1 日に日本語教育研究センターから発展的に発足しました。日本語教育研究だけでなく英語教育や世界の言語に関する教育研究の一層の促進のために所員一同努めております。RCGLE になりましたが、これまで以上に日本語教育にも貢献をするべく、研究・研修に励み、さらに多くの情報を発信していく所存です。引き続き『ICU 日本語教育研究』をよろしく願います。RCGLE になって発刊する『ICU 日本語教育研究』としては昨年に続き第 2 号となります。また昨年からはデジタル版という形での発行となりました。本誌の過去の号は、以下からダウンロードできますので、ご利用ください。

(ICU リポジトリ : <https://icu.repo.nii.ac.jp>)

今号には、1 本の研究論文、2 本の研究ノート、1 本の実践報告の他、当センターの主たる活動であるサマーコース報告、連続講演会およびシンポジウムの報告を掲載いたしました。2019 年度サマーコースは、74 名の受講生を迎え、終了し、その報告も掲載しました。実施には学内外の多くの方々のご支援をいただきましたこと、ここに深く感謝申し上げます。

2020 年度は、ICU の言語教育（日本語教育、英語教育、世界の言語教育）に共通して採用されている task-based approach の理論と実践を学ぶために「タスクに基づく言語教育の理論と実践」というタイトルで講演会及びワークショップを、ICU の教育に欠かせないライティング教育の促進と学生のライティング力強化のための方策を考えるために「大学におけるライティング支援の可能性を探る 1・2」というタイトルで講演会、ワークショップ及びパネルディスカッションを、そして多様な背景を持つ学習者の教育を考えるために「多様な言語的背景を持つ日本語学習者の「読み」を考える」というタイトルで講演会を予定しています。言語教育研究の一層の促進のために精進する所存です。

2020 年 3 月 1 日

グローバル言語教育研究センター長
岩田祐子

目 次

まえがき	岩田 祐子	
論文		
タイの中等日本語教員 A のキャリア形成過程 —複線径路・等至性アプローチ (TEA) による分析—	西野 藍・坪根 由香里・八田 直美	3
研究ノート		
大学生の「はい」「ええ」の使い分けに関する意識調査 —漫画を使用したアンケートを通して—	金山 泰子・二宮 理佳	23
継承日本語話者である大学生の読解ストラテジーに関する考察 —発話思考法によるデータの比較分析—	金山 泰子・藤本 恭子	39
実践・調査報告		
2019 年度 ICU 夏期日本語教育 C7 と C-Special による合同授業実践報告	加藤 久子・本間 邦彦	57
夏期日本語教育報告		
総括	桜木 ともみ	75
教務報告	武田 知子	79
文化プログラム報告	保坂 明香	85
事務報告	事務室	89
講演会・シンポジウム報告		
「マジョリティの特権を考える—真のダイバーシティをめざして—」		97
「『日本語非母語話者の読解コーパス』からわかること」		98
“The Theory of Knowledge in Japanese Schools: Reflections from the First Article One IB School in Japan”		99
“Facilitating Critical Thinking in the Classroom”		100
「継承語教育を考える」		101
活動、教職員一覧 (2019 年 4 月～2020 年 3 月)		
活動		105
教職員一覧		106